

タイトル:令和-UME no UTAGE-

作詞:葛井連大成(ふぢいのむらじおほなり)田氏肥人(でんしのうまひと)山上憶良(やまのうえのおくら)陰陽師儀氏法麿(おんやうしぎしののりまる)筑前介佐氏子首(すけさしのこおびと)

作曲:上野紘史 編曲:上野紘史 演奏:はるひのwithDODOWAKA

令和の典拠となった万葉集「梅の宴」32首より5首を選びEDMを施しダンス・ミュージックにしました。

新しい時代の幕開けを感じていただければと思います。

○梅の花今盛りなり思ふどち挿頭(かざし)にしてな今盛りなり

▷葛井連大成(ふぢいのむらじおほなり) 巻5-820

意味:梅の花は今が盛りだ親しき人々よ頭髪に挿して飾ろう。
今が盛りだ。

解説:「今盛りなり」を二度繰り返していますが、これは梅の花が今盛りであると同時に、大成たち宴の席の人々もまた今が盛りなのだと言祝(ことほ)いでいるのでしょう。

○梅の花今盛りなり百鳥(ももどり)の声の恋(こほ)しき春来たるらし

▷田氏肥人(でんしのうまひと)巻5-834

意味:梅の花は今が盛りだ鳥々たちの声も恋しい春がやって来るらし。

解説:「春来たるらし」とはこの時代、季節は神々が連れて来るものと考えられていたので、そんな季節を運んでくる「まれびと神」の到来を祝う伝統的な内容を踏襲した歌でもあります。「百鳥(ももどり)」は様々な鳥のこと。

○春さればまづ咲く庭の梅の花独り見つつや春日暮(はるひくら)さむ

▷山上憶良(やまのうえのおくら) 卷5-818

意味:春になるとまず最初に咲く梅の花をわたしひとりで見て春の日を過ごすなどどうして出来ようか... 解説:梅の花はひとりで楽しんで意味が無いのだと、この宴の皆と過ごすひとときを喜ぶ内容となっている。どんな可憐な花でも自分ひとりで愛でては寂しいだけという気持ちは現代人の我々にもよく理解できますよね。この憶良の歌も、そんな後生の世に筑紫歌壇(つくしかだん)と呼ばれることになる共に楽しい時間を共有できる仲間がいる喜びを素直な表現で詠った一首と思います。

○梅の花手折(たを)り挿頭(かざ)して遊べども飽(あ)き足(た)らぬ日は今日にしありけり

▷陰陽師儀氏法磨(おんやうしぎしののりまる)卷5-836

意味:梅の花を手折るかざして遊んでいても飽きることない日は今日なのだなあ。

解説:「陰陽師(おんやうし)」は卜占を行う者。儀氏法磨(ぎしののりまる)自身については、詳しいことはなにもわからないようです。そんな儀氏法磨の詠んだ歌ですが、この宴の一日

の飽きることない楽しさを素直な表現で詠った一首ですよ
ね。まあ、儀氏法麿たちからするとこの宴は上司の旅人から
の招きであったわけですが、旅人の性格から想像して部下であ
る儀氏法麿たちもあまり片ぐるしくはならず純粹に宴を楽
しんでいたのではないかと思います。この歌からもそんな心
からの楽しげな雰囲気がよく伝わってきます。

○万代(よるづよ)に年は来経(きふ)とも梅の花絶ゆることなく
咲き渡るべし

▷筑前介佐氏子首(すけさしのこおびと)巻5-830

意味:万年の年を経るとも梅の花は絶えることなく咲き続ける
がよい。

解説:「介(すけ)」は二等官。「佐氏子首(さしのこおびと)」は
詳しいことはわかりません。

梅の花の絶えることなく咲き続けよとの願いを込めて詠い、こ
うして見ると、自由な詠いまわしの席でありながらそれぞれ
が一座の中での自分の歌の役目のようなものを肌で感じ取っ
ているのか、見事にそれぞれの歌を詠い分けていることに驚か
されます。この「梅花(うめのはな)の歌」三十二首は、そんな
歌の趣を理解する人々の共同作業によって生み出された一種
の連作といえるでしょう。

万葉集解説サイト「万葉集入門」より

(解説:黒路よしひろ) ou.plabot.michikusa.jp

「令和-UME no UTAGE-」 歌詞

作詞：葛井連大成(ふぢいのむらじおほなり)田氏肥人(でんしのうまひと)山上憶良(やまのうえのおくら)陰陽師磯氏法麿(おんやうしぎしののりまる)筑前介佐氏子首(すけさしのこおびと)

作曲：上野紘史 編曲:上野紘史 演奏:はるひのwithDODOWAKA

梅の花 今盛りなり

思うどち かざしにしてな 梅の花 今盛りなり 今盛りなり

百鳥(ももどり)の声の恋しき春来たるらし

百鳥(ももどり)の声の恋しき春来たるらし

Dance for joy !

春さればまづ咲く 庭の梅の花

Ah 独り見つつや 春日暮(はるひく)らさむ 春日暮(はるひく)らさむ

春日暮(はるひく)らさむ

(RAP)

令和に春日暮らさむ

turn up,turn up, all day long

令和に春日暮らさむ

It's our time to sing along

わっしょい!

梅の花手折(たを)り挿頭(かざ)して遊べども飽(あ)き足(た)らぬ日は

遊べども飽(あ)き足(た)らぬ日は今日にしありけり

万代(よるづよ)に年は来経(きふ)とも梅の花絶ゆることなく

万代(よるづよ)に年は来経(きふ)とも咲き渡るべし

Dance for joy !

春さればまづ咲く 庭の梅の花

Ah 独り見つつや 春日暮(はるひく)らさむ 春日暮(はるひく)らさむ

※春日暮(はるひく)らさむ

※×3

